

NHK部落問題特集追撃編3弾 「かんさい熱視線・部落差別はいま」 たつの市の分断に手を貸したNHK

たつの市に行ってきた。
した。

NHKの「かんさい熱視線」の「部落差別はいま」たつの市実態調査から「」の報道が、美しい自然と詩情あふれた街のイメージを傷つけたようです。

三木露風の「赤とんぼ」、映画『ブーテンの寅さん』が描いた美しい自然とやさしい人間たちの心はこの地を日本の故郷にしま



映画『男はつらいよ 寅次郎夕焼け小焼け』

JR 駅本竜野駅に飾られていた。寅さんはたつの市のシンボルのようだ。この映画は1976年に公開された。シリーズ17作目。

寅次郎は、ふらりと訪れたこのたつの市で「ぼたん」という名の美しく気っ風のいい芸者（太地喜和子）と出会い、連日宴席をともにし、親しくなる。そこからいつものように人情話が展開するのだ。

人の価値を地位とか財産で判断しない寅さん。たつの市の街と自然と人情が織りなす風情が気持ちを和ませる映画だ。

した。そして、醤油と皮革産業は汗水たらして働く健気な人間の物づくりへの情熱の尊さを揖保川の流れのように脈々と伝えてきました。

この街を歩きながら、いっどこで発生しているかわからない部落差別幻想を持ち込み、分断を煽り、この街の風情を壊してはいけなと思った。恐らく市民のみなさんがそう思っているだろう。

今回はマスメディアという権力を乱用して、同和对策継続・復活を進める「解放同盟」（同和推進派）の皆さんの主張を全面的に広報した「かんさい熱視線」の誠に愚劣な意図を明確にしていきたいと思います。

「かんさい熱視線」は都合の悪い附帯決議を無視した

「かんさい熱視線」は部落差別解消推進法（平成28年12月16日）の附帯決議には触れずに無視し、たつの市の人権条例、生活実態調査を持ちあげ全



龍野市出身の詩人・三木露風の生家。

国に拡散しようとする意図が丸見えでした。

当然ながら放送法の公平・中立の原則を逸脱しています。

附帯決議とは、国会の衆議院及び参議院の委員会が法律案を可決する際に、当該委員会の意思を表明するものとして行う決議のことで、法の趣旨を明瞭にするためのものです。

そこで衆議院法務委員会、参議院法務委員会の両方で決議されています。その内容は簡単に言えば「必要のない、行き過ぎた同和对策はやめること」です。

国民の知らない「終わらない同和对策」の理由

同和对策事業は、1969（昭和44）年に国会で成立した同和对策事業特別措置法は、当初は10年間の時限立法として開始しましたが、改正と延長、新規立法などが制定され、2002（平成14）年に終了するまで、33年間で約15兆円の国家予算が費やされました。これに自治体の予算も加わりますから、総額は20兆円をこえるといわれています。

その後も、「解放同盟」（同和派）のいいなりの自治体の多い、西日本の一部の自治体、九州ではほとんどの自治体で、独自に同和对策事業を行っています。その根拠は「部落差別が存在する限り、同和对策を」というものです。

この理論でいけば誰が書いたか、誰が発信しているかわからない「ネット差別」があるかぎり、同和对策は続きます。



全国生産量の4割を占める皮革

駅前の皮革製品販売ショップに入ると、おしゃれで美しい革製品が並んでいる。たつの市の皮革の歴史は古い。伝承によれば1600年前に大陸から伝えられたといわれている。この地に皮革製造が盛んになった背景は、揖保川水系林田川があったこと、近くの室津には港があり、北前船が入り、他地方から原皮が入り、加工したものを販売するのに便利な地であったからと言われていた。ビニールや合成皮革が登場しても、すたれることなく、皮革製造技術と皮革製品は進化し続け、新しいデザインのもとに販路を広げているという。

NHKはなぜ「解放同盟」の広報の役割を果たしたのか

NHKに限らずマスメディアには「部落差別」の定義や、「部落差別」の解決された状態についての明確な展望を持っていません。そのうえに、「解放同盟」の「差別語狩り」に基づく、「確認・糾弾」の後遺症が深く刻まれているために、部落問題報道は「解放同盟」の情報や意見に頼らざるを得ないのです。その結果、「かんさい

熱視線」は部落差別解消推進法と一体のものである附帯決議を完全に無視しました。

今回の放送の目的は、「解放同盟」が全国の自治体の人権条例を制定させ、実態調査を行わせ、同和対策を復活させるための基本計画の策定を後押しすることでした。

さらに、番組ではわざわざ担当記者に人権条例を制定した全国の自治体が89（2020年7月時点）あると紹介し、「実際には調査や対策に乗り出している自治体は

限られている」と、人権条例や実態調査を実施しないことがあたる問題かのように指摘させました。

「あんたらは『解放同盟』の広報官か！」

SNSを使いマスメディアの偏向した部落問題報道を変えよう

マスメディアは第四の権力といわれています。第四の権力とは、立法と行政、司法の三権に加えて、それらを監視する権力をもつマスコミや報道機関のことです。

第5の権力とは、立法・司法・行政、それに20世紀型のマスコミや報道機関（第4の権力）に加え、オンラインでつながることで世界80億人全員が握る新しい権力のことです。

森喜朗東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長（元総理）は女性蔑視発言をSNSで世界中に拡散され、ツイッターなどによる猛抗議の広がる中、辞任に追い込まれました。

NHKは「NHKスペシャル—緊迫ミャンマー市民たちのデジタル・レジスタンス」（4月4日）は在日ミャンマー人たちによるSNS上の投稿動画の徹底解析による軍による弾圧の実態を明らかにし、世界に発信している姿を放送しました。

「かんさい熱視線」と同じテレビ局とは思えない

第5の権力は確実に成長し、世界の政治や経済に大きな影響を与えつつ

あることは確かかなようです。

部落差別を本当に無くしたいと考えているすべての国民のみなさん、試しに、NHKに「二度と『解放同盟』広報放送をやるな」とメールを送ってみませんか。

送り方は、まずNHKを検索し「ご意見・問い合わせ」—「NHKの番組について」—「メールフォーム」と続き、メールフォームが出れば書くだけです。

神戸人権交流協議会のブログアクセスコードは以下の通りです。めんどくさいですが、一度アクセスしてみてください。

楽天・<https://plaza.rakuten.co.jp/jinkenren/>

FC2・<http://jinkenren.blog28.fc2.com/blog-entry-61.html>